

高砂西港盛立地に係る住民説明会の開催結果等について

1 地域ミーティング(高砂市主催)

(1) 開催概要

11月10日から11月21日まで、高砂市内8地区で地域ミーティングを開催し、高砂西港盛立地のPCB汚染土に係る報告書の内容について、住民への周知を図るため説明を行なった。地域ミーティング参加総数は330名で、西港盛立地に関する意見等発言者数は、5名であった。

(2) 地域ミーティングで出された主な意見と回答要旨

主な意見	地区名
恒久対策についての市の基本的な考え方について	曽根
恒久対策について、市の負担はあるか。西港の再整備について公共埠頭の役目が疑問である。	高砂
西港再整備協議会を公開でやるべき。密室の中でやるべきでない。恒久対策とPCB特措法の期限との関係はどうか。	高砂
西港盛立地についての企業の責任	荒井
PCB処理に一切税金投入しないと宣言してほしい。	伊保

回答要旨
最終の目標は盛立地が無くなることである。ただそれが可能かどうか。可能な案を採用することになる。
恒久対策の事業主体は、盛立地の所有者であると考えている。市は、負担する考えはない。
西港盛立地は、PCB特措法の適用を受けない。
西港盛立地の管理は、企業2社が実施している。追跡調査費用についても企業に請求している。行政の責任として企業に言うべき事は言う。

2 西畑地区住民説明会(西畑地区コミュニティ協議会主催)

(1) 開催概要

開催日時 : 11月15日(土) 10:00~12:10 西畑共同自治会館
参加者等 : 参加者約60名 発言者 13名

(2) 西畑地区住民説明会で出された主な意見と回答要旨

発言要旨
何故もっと早い段階で検討がなされなかったのか。高砂市としてどのように係ってきたのか。これまでどのような検討がされてきたのか。恒久対策についての市の考え方とその理由。どのような方法で最終結論を出すのか。いつ頃結論がでるのか。誰が費用負担するのか。
責任企業と費用負担を含めて調整が必要である。今年度中に結論出するのか。
A案の受入可能な大規模処分場が課題とあるが、解決可能か、不可能か。B案の課題で近傍に大規模な処理施設がないとあるが、分割して実施する場合は可能か。費用面から、企業に責任があるならば、企業と調整ができてから説明会をすべきである。
擁壁の補修は、いつ実施したか。2年ほど前には、擁壁からPCBが流れ出ている。
場合によっては、住民の移転が必要とあるが、被害想定をどのように考えているか。
擁壁の耐震性が弱いという指摘がされていることは事実であり、住民の不安が一つでも解消できるように早急に対応すべきである。
実現可能な案でももう少し詳しく、メリット、デメリットを示しながら具体的に説明をしてもらいたい。

回答要旨
平成17年にみなとまちづくり構想がとりまとめられ、それを契機として改めて検証が必要であるということから、検討がなされた。それまでは、市は、モニタリング調査を実施し、周辺への影響が無い事を確認している。また各企業は、定期点検を実施し補修等管理に努めてきた。
最終の目標は、盛立地が無くなることである。
現在、県が設置した西港再整備推進協議会で議論しており、今年度中のとりまとめを目標に協議している。
恒久対策の実施主体は、盛立地の所有者であると考えている。
受入可能な処分場が課題とあるのは、大量に受入られる処分地の有無について現状で明らかでないということである。
分割して実施した場合は、工期がさらに長くなる。
今日の説明会は、技術専門委員会の報告書の説明であり、工法が決まった場合は何らかのかたちで皆さんに説明する。
平成18年に擁壁の全面塗装を実施している。PCB含有固化土は、擁壁から離れた場所に盛り立てられ、アスファルトで遮水されている。
擁壁からの液体については、測定を実施しているが、PCBは検出されていない。
具体的な工事に伴う粉じんの影響の程度、範囲について検討されていない。
どのような恒久対策をとるにしても、擁壁については対応が必要であるとの指摘を受けており、そういう認識で企業とも話を進めていきたい。

高砂政経懇話会から高砂西港再整備推進協議会会長宛に提出された要望書（12月4日付け）の要旨

- 1 会議を公開し、住民の傍聴を認め、情報公開していくこと。
- 2 高砂西港及び大木曽水路において、精密な水質検査等を実施し、公表するなど安全性を確保すること。
- 3 恒久対策方法の選定について、住民意見を十分に聞いた上で慎重な議論を行い、その合意に基づき判断すること。また、擁壁のみを強化する案を検討に加えること。